

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	港区
学 校 名	池島小学校
学校長名	小山勝一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・池島小学校では、第6学年 24名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

大阪市と比較すると、国語-10、算数-6、理科-11ポイント下回っている。以前、国語については正答数分布グラフが左に偏っている。算数、理科ではグラフが右に寄ってきており、これまでの学習の成果が出つつあると考える。児童質問紙の設問7、8から窺えるように指導者の肯定的な声かけを中心に自尊感情の向上に努めてきた成果も見えてきている。設問32、33、34の回答を見ると、学習者用端末を先行的に活用し、デジタルドリルやプログラミング学習に対する児童の体験を重ねてきた成果であるといえる。設問11にあるように「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」との回答が大阪市や全国の平均を上回っていることから新たな学びに対する経験によるものであると考える。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕知識・技能の面での資質・能力の基礎となる学力の育成は進んでいる。特に「我が国の言語文化に関する事項」では全国平均を上回る結果となった。第1ブロックで取り組んでいる漢字検定への学習の成果が出ているともいえる。しかし、思考・判断・表現のうち「書くこと」の正答率が低く、文章表現を適切にするといった力が十分とは言えない。

〔算数〕「データの活用」「数と計算」の分野で全国平均に迫る正答率が見られる。これも、知識及び技能の面での学力の育成が進んできた成果といえる。デジタルドリルやブロック予算で購入した学習ドリルによる日々の学習の成果である。反面、割合を使う問題が苦手で、正答率が伸び悩んでいる。

〔理科〕知識・技能での正答率が比較的高いが、選択式の設問に対してであることが見えた。選択肢が準備されていることで安心感があると考えられる。記述式で、思考・判断・表現を必要とする設問は苦手である。問題解決型の学習による思考の仕方が十分に身につけていないと考えられる。

質問紙調査より

設問32・33・34から分かる様に、学習用端末を授業に積極的に使っており、それが児童にも当然の学習方法の一つであると定着している。特に、プログラミング学習を通して児童が自ら問題解決をする態度は育っている。また、話し合う活動にも意欲を見せており、国語の学習も嫌いというわけではない。これまでの学習経験を通して、児童は学ぶ意欲と学び方を身に付けてきている。その成果として、「自分にはよいところがあると思いますか」という設問に対して肯定的な回答が、全国平均を上回り、86.9ポイントとなっている。これは、年度を重ねるごとに上昇しており、児童の生きる力の原動力となっていると考えられる。児童の少しの成長を喜び、認めることができる教育活動の成果が表れているといえる。

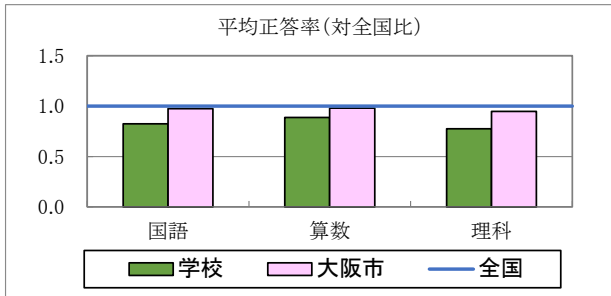
今後の取組(アクションプラン)

算数科「数と計算の領域」については知識及び技能面での定着がみられる。今後も引き続き重点的に学習の工夫を行う。「ブロック化による学校支援事業」に伴う漢字検定、学習ドリルの活用を引き続き行う。学力向上サポーターを活用した放課後学習「池島タイム」での補充学習の設定、研究教科である国語科の文章読解力の向上に組織的に取り組む。「思考力・判断力・表現力」の育成をめざし、引き続きICT機器の効果的な活用を進め、授業に活かす。学習環境の整備は引き続き、図書館と学級文庫の蔵書数の拡大、図書館司書を活用した読書活動の推進に取り組んでいく。「学びに向かう力・人間性」の育成に向け、各教科の見方・考え方をはたらかせた学習を進める。特別の教科道德の授業を充実させ、様々な道德的諸価値に関する理解を深めさせる。児童が自己の生き方を確認し、どのように生きていくことが必要であるのかを考えさせる。

【 全体の概要 】

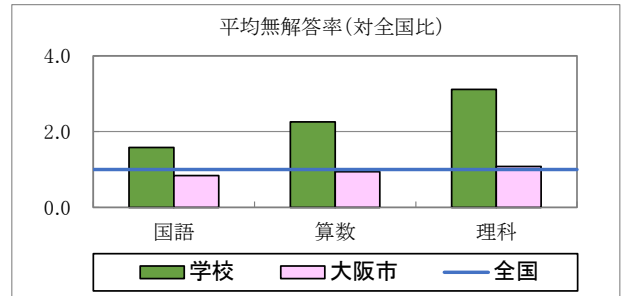
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	54.0	56.0	49.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3



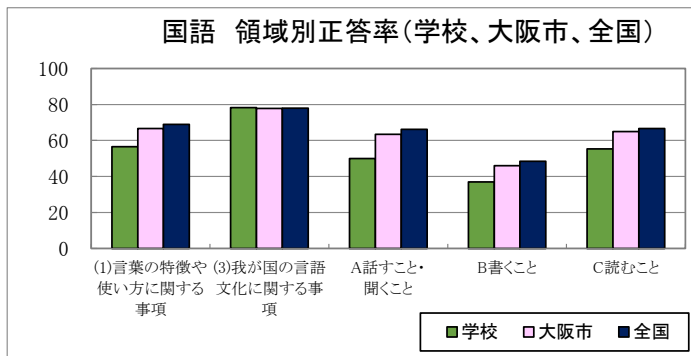
平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	9.0	7.9	11.2
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6



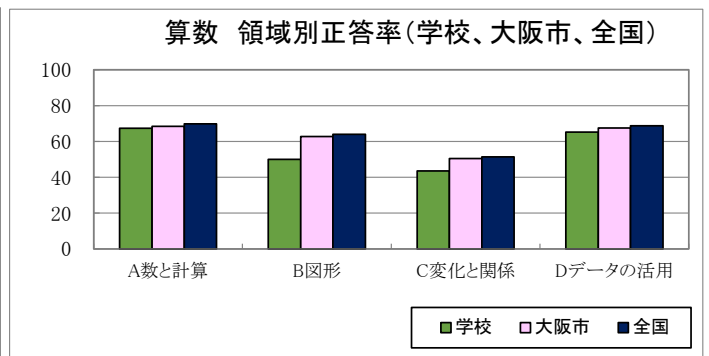
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	56.5	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語 文化に関する事項	1	78.3	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	50.0	63.4	66.2
B 書くこと	2	37.0	46.0	48.5
C 読むこと	4	55.4	65.0	66.6

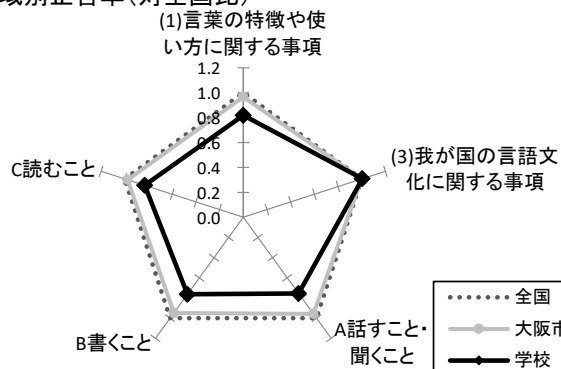


【 算 数 】

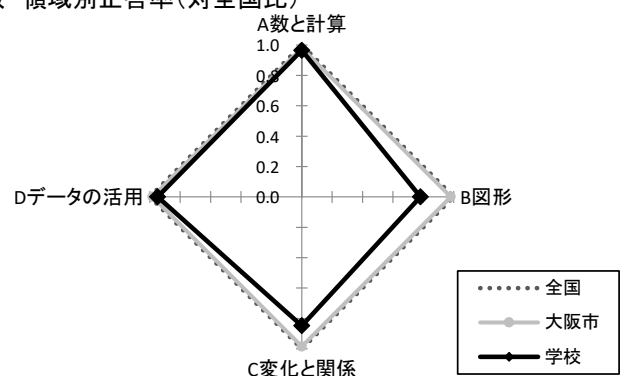
学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	67.4	68.4	69.8
B 図形	4	50.0	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	43.5	50.5	51.3
D データの活用	3	65.2	67.5	68.7



国語 領域別正答率(対全国比)

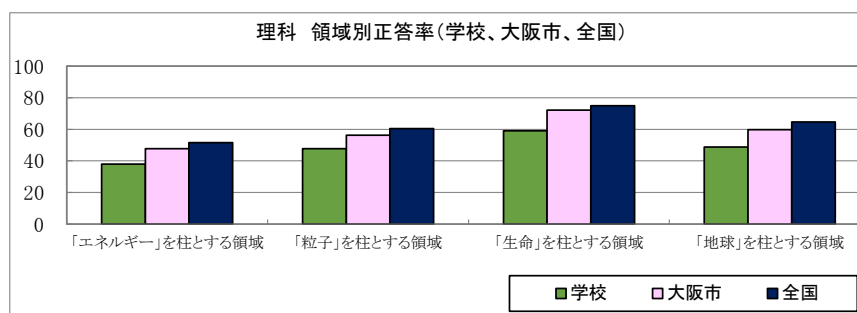


算数 領域別正答率(対全国比)

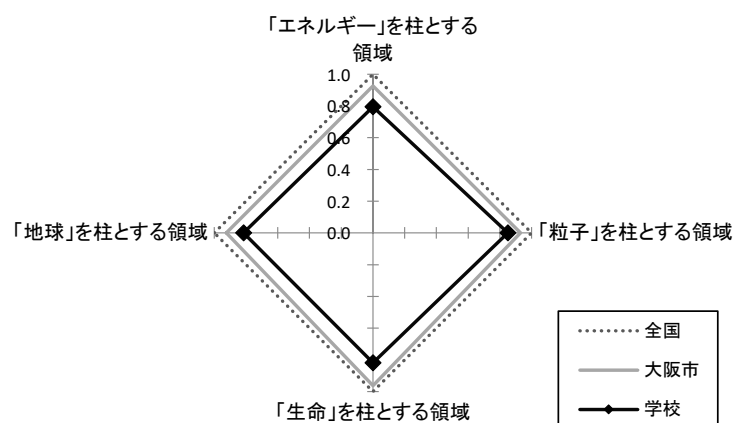


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	38.0	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	5	47.8	56.2	60.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	5	59.1	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	5	48.7	59.7	64.6



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

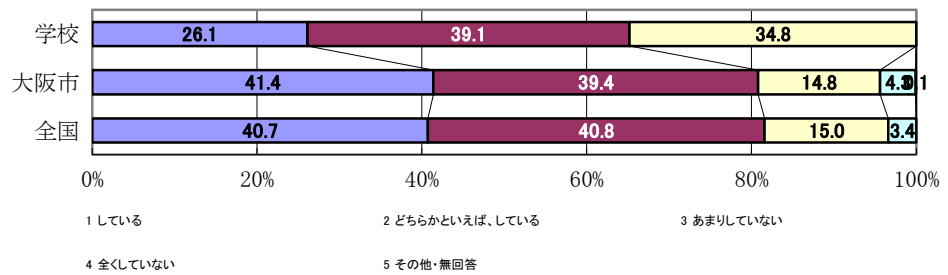
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

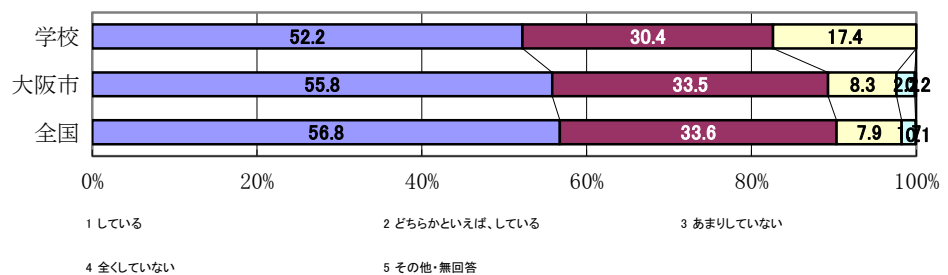
2

毎日、同じくらいの時刻に寝て
いますか



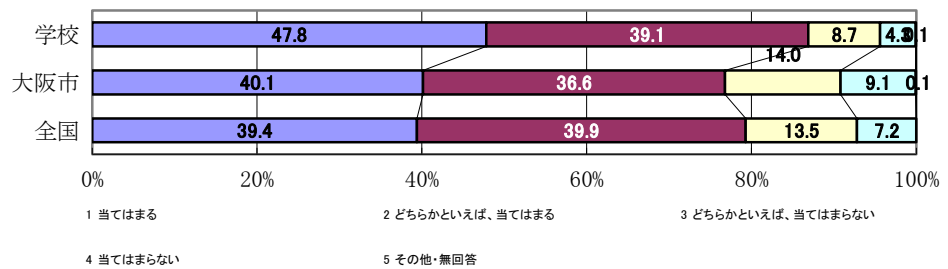
3

毎日、同じくらいの時刻に起き
ていますか



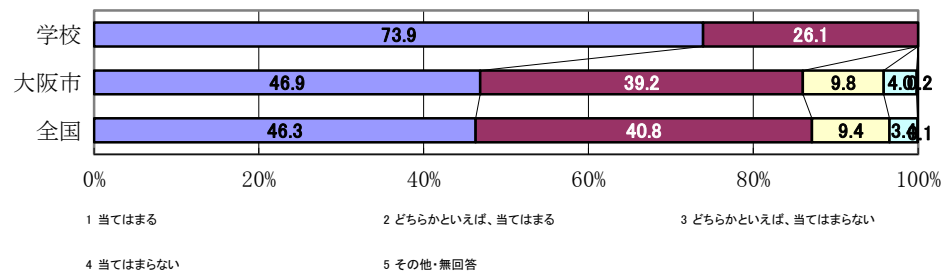
7

自分には、よいところがあると
思いますか



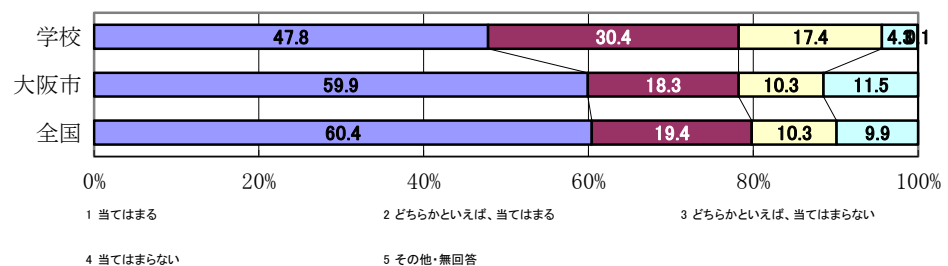
8

先生は、あなたのよいところを
認めてくれていると思いますか



9

将来の夢や目標を持っていま
すか



児童質問紙より

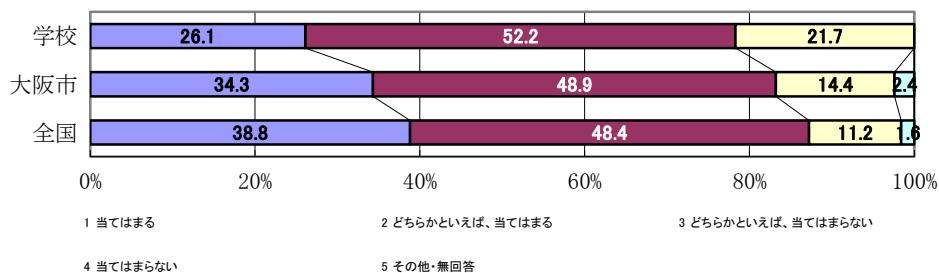
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

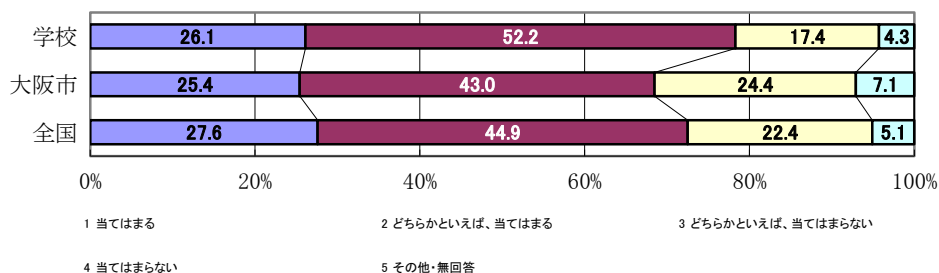
10

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか



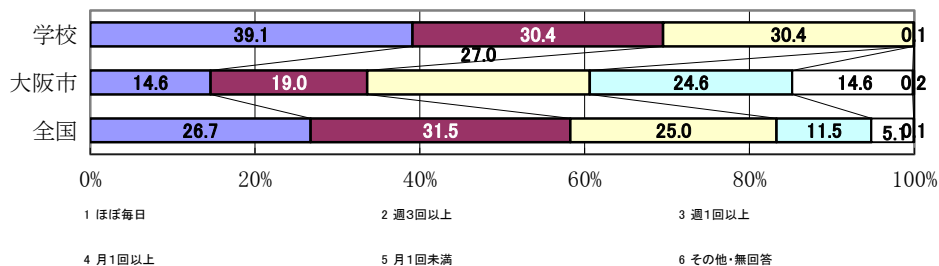
11

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



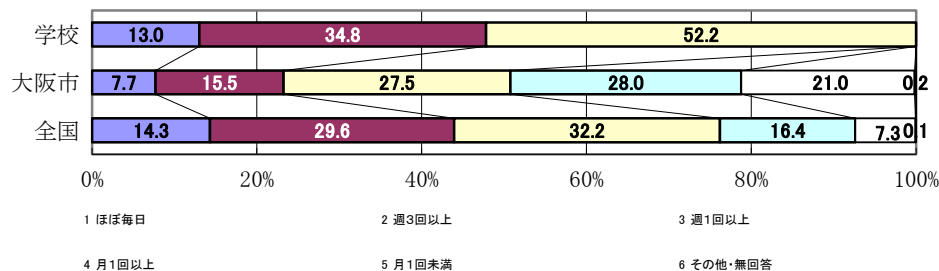
32

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



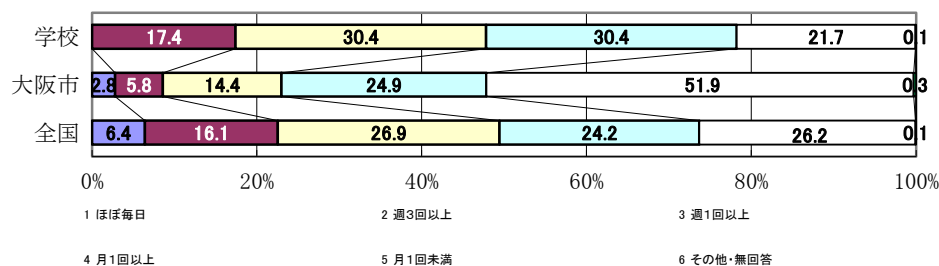
33

学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)



34

学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか



児童質問紙より

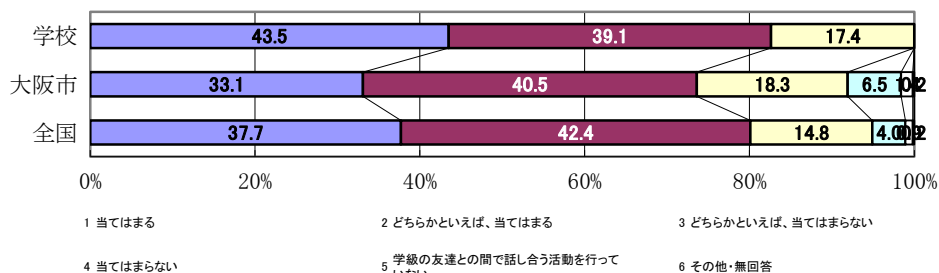
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

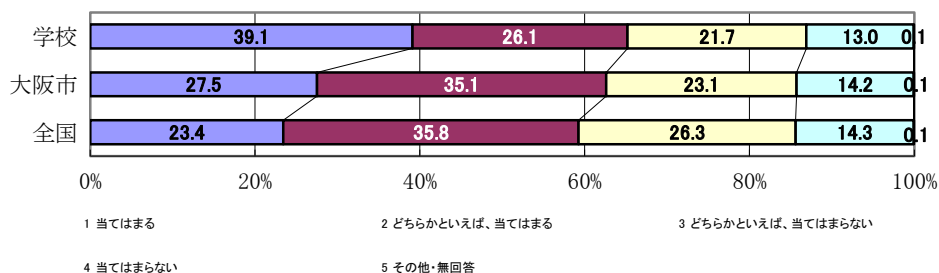
43

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



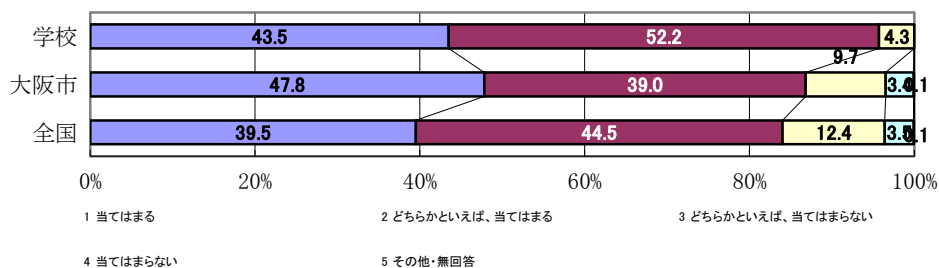
49

国語の勉強は好きですか



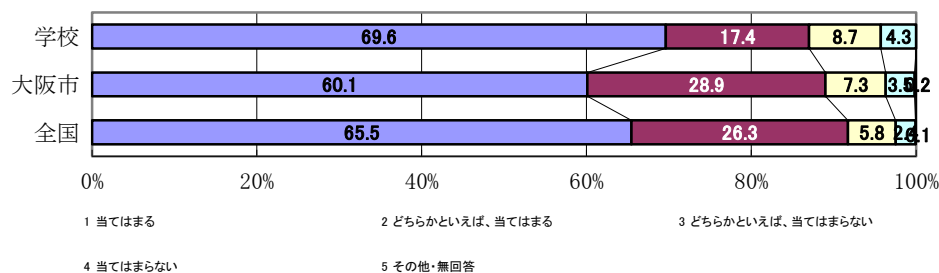
51

国語の授業の内容はよく分かりますか



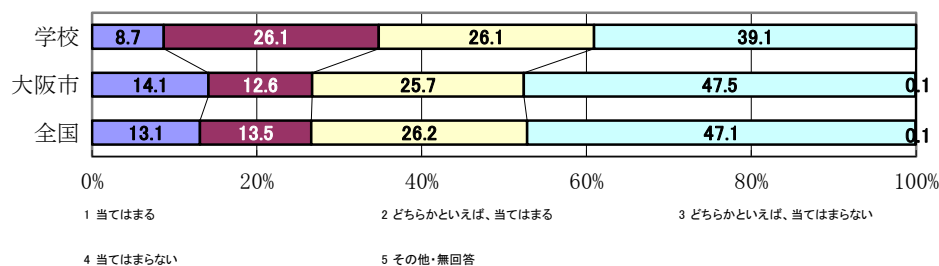
52

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



66

将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか



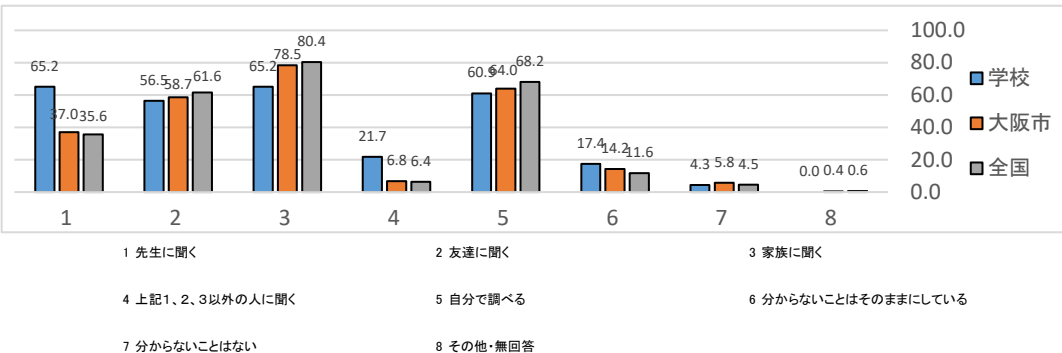
児童質問紙より

質問番号

質問事項

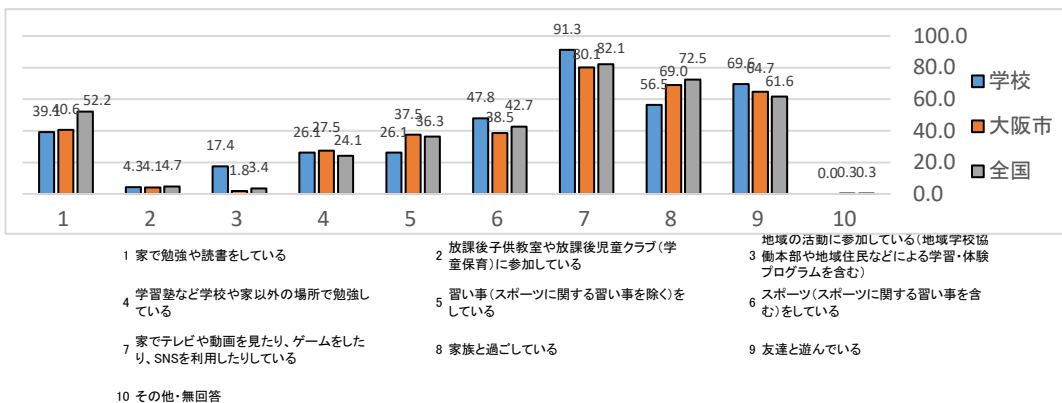
19

家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(複数選択)



31

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



学校質問紙より

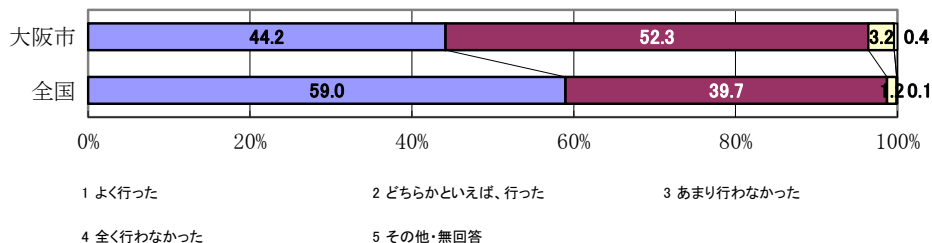
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

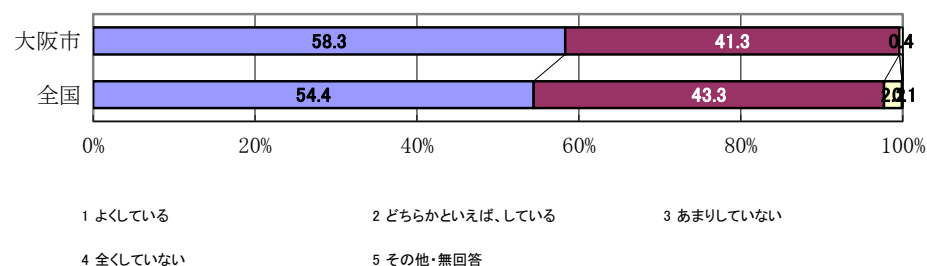
学校 「よく行った」を選択



19

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

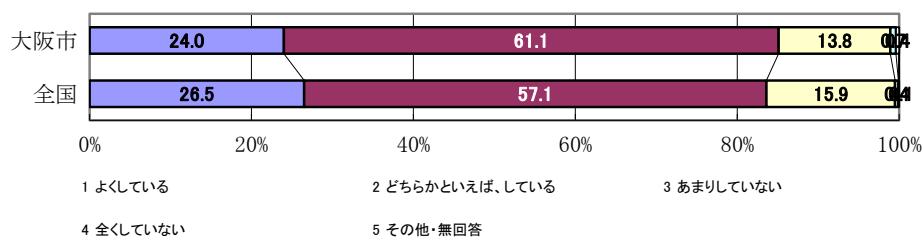
学校 「よくしている」を選択



20

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

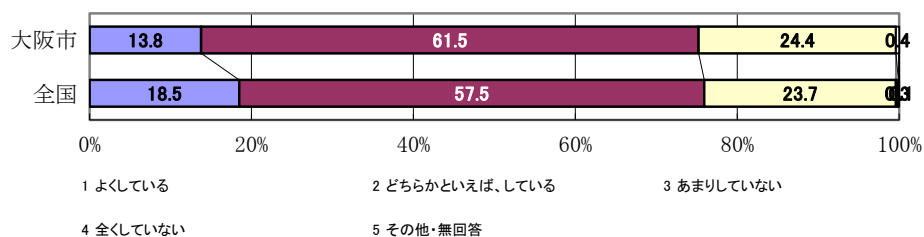
学校 「あまりしていない」を選択



21

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

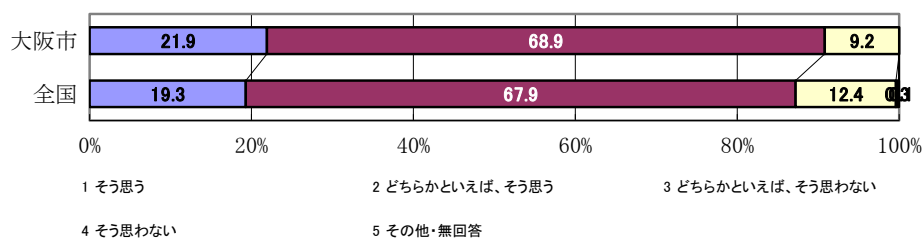
学校 「あまりしていない」を選択



23

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

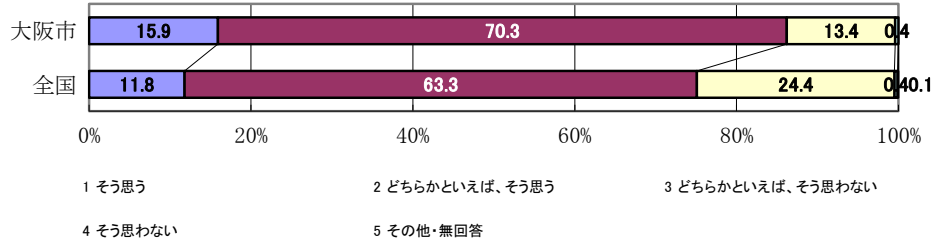
質問番号

質問事項

24

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか

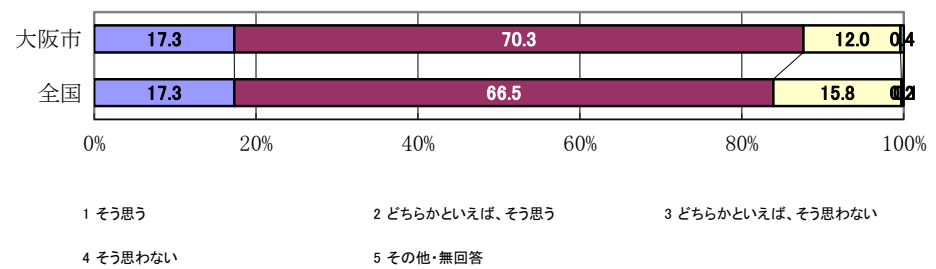
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



25

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか

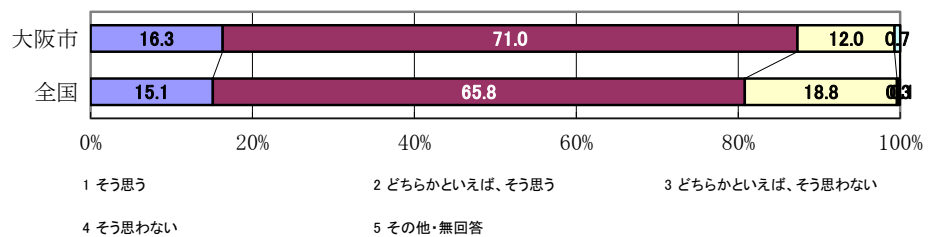
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

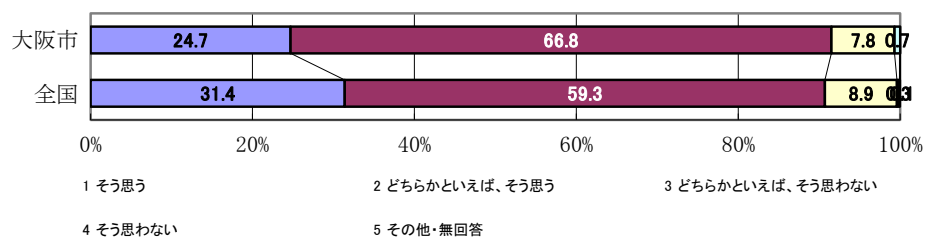
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていますか

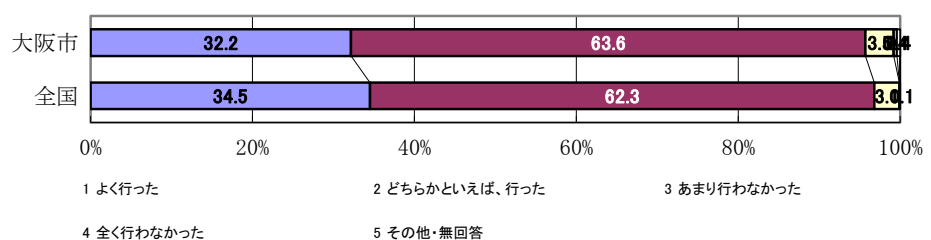
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

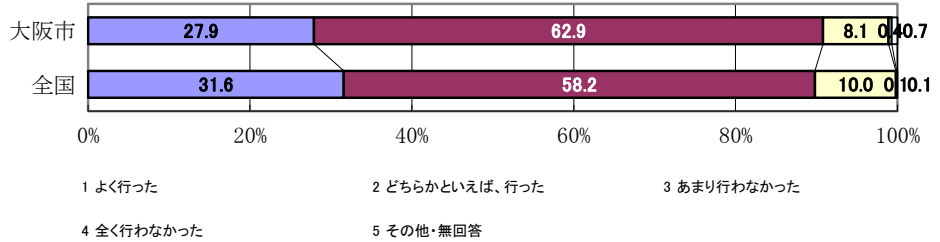
質問番号

質問事項

29

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

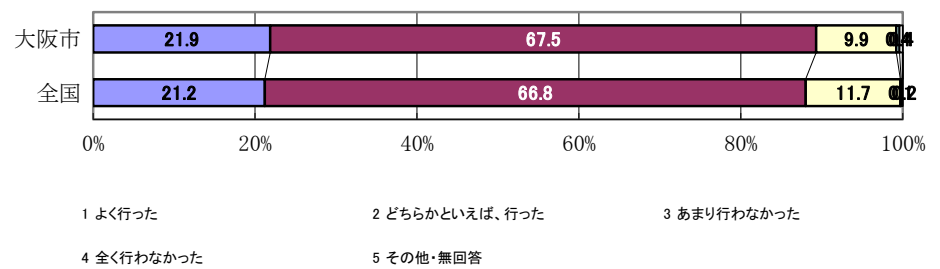
学校「どちらかといえば、行った」を選択



30

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

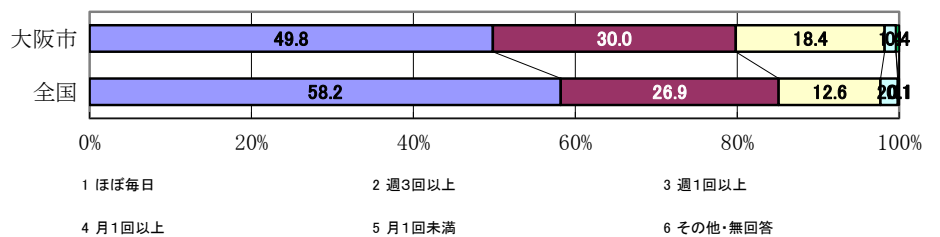
学校「どちらかといえば、行った」を選択



59

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

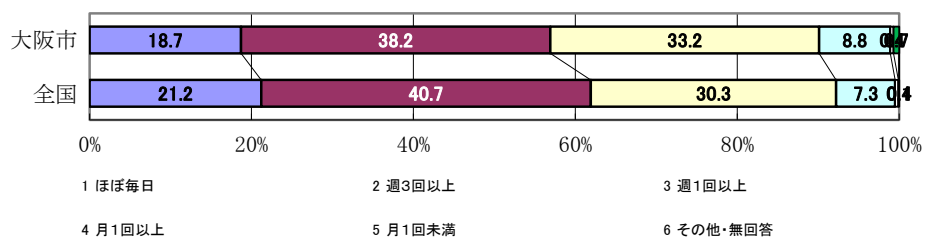
学校「ほぼ毎日」を選択



60

調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校「週1回以上」を選択



61

調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校「月1回以上」を選択

